

最大光度

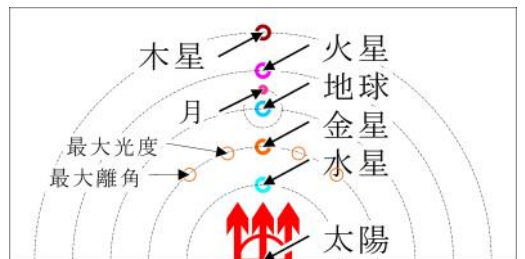
今月も天体の運行上、目立つものは金星になります。先月は最大離角を迎え、太陽近くの白い空から離れた青い空の中で見やすくなった金星を肉眼で確認した人もいることでしょう。天体望遠鏡ではピンポン玉を半分に割ったような印象でした。半月形状なので、月を見せられていると勘違いした人までいました。今月は先月より金星は太陽の位置へと近づくので水色の空の辺りになりますが、金星自体も明るくなるので肉眼で確認できる日が続きます。

形状

私達は日常で月を見慣れていますが、だから“金星が最も明るく見える”と聞くと、『半分だった形が丸くなったに違いない。』と思う人もいるかもしれません。しかし、天体望遠鏡で見ると意外にも三日月のような形状です。その代わりに半分に見えていた頃より大きく見えます。つまり、私たちの地球に近づいた状態です。肉眼では大きさの違いは分かりづらいですが、日中の空でも見つけやすくなるのはこの大きさ（視直径）の違いも関係します。三日月のような形状がさらに細い（薄い）状態になれば光度が下がる（暗くなる）ことになります。

空間把握

自分の知識で実際に略図を書いてみましょう。1. 太陽を中心に惑星が廻っている。2. 惑星を中心に衛星（月など）が廻っている。3. 月食や日食や惑星食が定期的にかかるという事は公転軌道面は同一面上のようだ。これらのヒントで略図を書くと、最大離角や最大光度が宵の明星の時も明けの明星の時も同じ様にありそうだと気づきます。また、月の満ち欠けは私達から距離が変化しない現象で、金星の満ち欠けは私達からの距離が変化する現象だと理解できます。他にも地球と太陽を結ぶ直線上に惑星がある時、最も近い時、最も遠くなることにも気づくでしょう。厳密には、各惑星の公転軌道が想像以上に離れていたり、やや楕円軌道だったり、公転面がやや傾いていたりするので、略図の場合は注意が必要です。



きらら室根山天文台

- ★ 住 所 〒029-1201 岩手県一関市室根町折壁字室根山1-146 TEL/FAX 0191-64-3700
- ★ 休 館 日 火・水曜日 夜間開館 金・土・日曜日 及び 祝祭日当日
- ★ 開館時間 【昼の部】 13:30～17:00(4月～8月) 13:30～16:30(9月～11月) 【夜の部】 19:30～21:30(4月～8月) 19:00～21:30(9月～11月)
- ★ 入 館 料 大人330円 小・中学生160円 団体(20名様以上) 大人270円 小・中学生130円
- ☆ 学校の親子行事や子ども会など団体でのご利用の場合は、休館日でもお受けすることがあります。

詳しくは、一関市役所室根支所産業建設課(0191-64-3806)まで、お気軽にお問い合わせ下さい。